穂　学

令和５年度
広州日本人学校　学校便り
［Ｎｏ16］
令和５年 11 月 16 日（木）
発行責任者 校長　加藤康徳

「ワクワクする授業の展開をめざして」

広州日本人学校では教育計画の中に日本の学校と同様に様々な体験的な活動を取り入れています。大きな活動としては、「宿泊体験的な学習（修学旅行や宿泊学習）」「職場体験」「登山」「公園での虫取り」「茶道体験」「商店での買い物体験」などがあります。そして、小さな活動としては、日々の授業の中で「〇〇〇の使い方」「〇〇〇の解き方」「〇〇〇の書き方」など、教室の中での活動を挙げることができます。

昨年度まではコロナ禍でこの体験的な活動もかなりの制約を受けてきましたが、今年度はどの学年もより積極的に体験的な活動を充実させ、コロナ禍ではできなかった授業に取り組んでいます。

また、本校は海外にある学校として、日本とは違う環境の中での体験的な活動が可能な学校でもあります。この中国は、日本とのはるか昔からの歴史や文化、さらには経済などのつながりを考えても、「人・もの・こと」に関する体験ができる環境にあふれていると私は考えます。

先日、校内で研修会を開催した時、先生たちに「さまざまなつながりを授業というフィルターを通して子どもたちとつなげる活動を加速させてください。」というお願いをしました。今後はより子どもも教師もワクワクするようなダイナミックな授業を展開いたします。

さらに子ども達にとって、海外で生活をするということ自体が貴重な体験だと考えます。子ども達には学校での授業のみならず、中国に住んでいることに自分なりの興味や関心を見出し、ぜひ有意義な体験活動を学校、家庭を問わずに実行してもらいたいです。

保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

＜研究授業事後研修会の様子＞

＜授業を通してそれぞれのつながりを
子どもとつなげる＞

「村上清加さんの講演会を開催しました。」11/3（金）

村上清加さん（アスリート）
＜プロフィール＞
障害名 ：損傷による 下肢機能障害
・駅のホームを歩行中、貧血で倒れ線路に落ちたところに電車が来てひかれ右足切断と左足粉砕骨折の大けがを負う。
競技種目（100m・走幅跳）
2012 年ロンドンパラリンピック出場
2015 年世界選手権ドーハ大会 日本代表
2017 年世界選手権ロンドン大会 日本代表

＜中学部１年生の感想＞※一部抜粋

先日、村上さんのお話を通して、どんな苦境に立たされても、下を向く必要は無いものだということを知りました。下を向いている暇があったら、前を向いて大きな一歩を踏み出すことが大切であり、どんなに小さな一歩でも良いから新たな景色をみることが自分にとって大きな一歩になるのだと思いました。それは、足を失ってしまった時に限らず、自分の今後の生き方にもとても参考になると思います。・・・・・・・

「つながりのある活動の紹介」

＜学校経営のスローガン＞
「つながり」を「未来に実感」させる
広州日本人学校の創造

＜大切にする５つのつながり＞
①先生とのつながり
②授業とのつながり
③友だちとのつながり
④保護者・日本人社会とのつながり
⑤中国とのつながり

＜小１生活科（おもちゃ祭り）＞

＜広州植物園見学（低学年）＞

＜小４白雲山登山＞

＜小学部キッズタイム＞

「自由授業参観を開催します。」※１１月２８日（火）、２９日（水）、３０日（木）
詳細については既に学校から配信されている企業チャット、学年、学級だより等をご覧ください。